

医療現場：看護部

テーマ：保清ケアの回数をより頻繁に

■ 背景

活動制限、傷、運動能力の障害などの理由により入浴出来ない患者さんは多い。入浴は出来なくとも、洗髪、足浴や手浴だけでも希望する患者さんは多く、身体の清爽は体臭軽減や感染症予防は勿論のこと、リラックスや不眠解消などの効果が期待できる。入院患者さんへ洗髪、足浴や手浴を行うためには看護師の補助が欠かせないが、看護の現場は慢性的な人手不足のため、毎日実施することが出来ない実態がある。



■ 現状の課題

保清ケアには例えば下記の課題がある

- ・蒸した温タオルの提供：使い捨てタイプは手間は省けるが、環境へは悪影響。リユースタイプは洗濯・乾燥の手間と費用が必要、また感染症蔓延のリスクが残る
- ・洗髪：看護師がかかりきりになる、大量の水が必要、ドライヤーによる乾燥工程も必要
- ・水が周辺こぼれてベッドや床が濡れる恐れ



■ 機能アイデア例

- ・美容室にあるオートシャンプー台の簡易版を低価格で提供する（出来ればポータブル型で）
- ・紙おむつの様に吸水性に優れる素材で頭部周辺を覆うことで、周囲へ水をこぼさず洗髪する
- ・水量の削減と工程短縮が出来るポータブルタイプ
- ・手用・足用タオルなどのセット化や使い放題プラン（患者が負担可能な価格）

■ 市場性

病床数100以上の病院は全国で約5,200件（2022年総務省調査）ある。また、患者の保清ケアは病院だけでなく介護施設でも同様の問題を抱えており、高齢者の増加に伴い、潜在的な需要は今後も拡大していくものと思われる。厚生省の調査によると2021年には介護老人福祉施設は全国で約8,400を超える数が報告されている。訪問看護でも利用される可能性があり、すると潜在需要はさらに大きくなる。

■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>